

番号	令和7年度公共事業再評価調書				担当課名	河川海岸整備課																								
事業名	河川改修事業			事業主体	静岡県																									
箇所名	にきゅうかせんほりどめがわ 二級河川堀留川			関係市町	浜松市																									
事業採択年度	平成 27 年度		計画期間	平成 27 年度 ~ 令和 26 年度																										
用地着手年度	平成 28 年度		工事着手年度	平成 28 年度																										
再評価理由※	再評価実施後5年間が経過した時点で継続中																													
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~R5年度	R6年度	R7年度見込	計																								
	17,800		3,266	366	70	3,702																								
事業概要	<p>(1)事業目的 概ね10年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることで、同規模洪水に対する床上浸水の発生を防止する。</p> <p>(2)事業内容                      施工延長： 2,300 m                      河道改修： 2,300 m (築堤、河道掘削、護岸工)                      橋梁工： 6 橋 水門工： 1 箇所</p>																													
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 当該地区は、過去より浸水被害が頻発しており、地元からの河川改修への要望が強い。また、市街化調整区域および人口集中地区に該当しており、流域内における民間開発や宅地化の進行が見られ、事業採択時と比べ、水害が発生した場合の危険度は増加しており、早期に治水安全度の向上を図る必要がある。</p> <p>(2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 7 年度時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>B/C (i=4%)</th> <th>参考:B/C (i=2%)</th> <th>参考:B/C (i=1%)</th> <th>EIRR</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.0</td> <td>10.4</td> <td>13.0</td> <td>25.4%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総便益 (B) 1,100.7 億円 (被害軽減便益: 1097.7億円、施設の残存価値: 3.0億円)</li> <li>・総費用 (C) 156.6 億円 (建設費: 140.0億円、維持管理費: 16.6億円)</li> </ul> <p>○見込まれる効果 (定性的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災可能性に対する不安の低減効果</li> <li>・治水安全度の向上による地価の上昇</li> <li>・病院等の公共サービスの停止等による波及被害の抑止効果</li> </ul> <p>(3)事業の進捗状況 (令和 7 年度見込み)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>進捗率</th> <th>内 訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>20.8%</td> <td>( 3,702 百万円 / 17,800 百万円 )</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業量</td> <td>河道改修</td> <td>( 400 m / 2,300 m )</td> </tr> <tr> <td>橋梁工</td> <td>( 0 橋 / 6 橋 )</td> </tr> <tr> <td>水門工</td> <td>( 1 箇所 / 1 箇所 )</td> </tr> <tr> <td>用地取得</td> <td>36.2%</td> <td>( 25,000 m<sup>2</sup> / 69,000 m<sup>2</sup> )</td> </tr> </tbody> </table>						B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	7.0	10.4	13.0	25.4%	区分	進捗率	内 訳	事業費	20.8%	( 3,702 百万円 / 17,800 百万円 )	事業量	河道改修	( 400 m / 2,300 m )	橋梁工	( 0 橋 / 6 橋 )	水門工	( 1 箇所 / 1 箇所 )	用地取得	36.2%	( 25,000 m <sup>2</sup> / 69,000 m <sup>2</sup> )
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																											
7.0	10.4	13.0	25.4%																											
区分	進捗率	内 訳																												
事業費	20.8%	( 3,702 百万円 / 17,800 百万円 )																												
事業量	河道改修	( 400 m / 2,300 m )																												
	橋梁工	( 0 橋 / 6 橋 )																												
	水門工	( 1 箇所 / 1 箇所 )																												
用地取得	36.2%	( 25,000 m <sup>2</sup> / 69,000 m <sup>2</sup> )																												
事業の必要性	<p>評価 継続が妥当</p>																													
【視点2】	<p>今後の事業の進捗の見込み 新川合流部に設置する新設水門について令和元年度より着手し、令和5年度に完成した。「堀留川を考える住民会議」を設けるなど、地元も協力的であり、用地買収に向けた調整等も順調に進んでいる。毎年のように甚大な浸水被害が発生しており、地元の期待度は非常に高く、事業に対し協力的であることから、引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。</p>																													
【視点3】	<p>新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性 工事発生土を近隣の公共事業に利用するなど、引き続き、他事業と連携し、コスト縮減に努める。道路管理者および地元自治会等と調整の上、橋梁の統廃合も検討し、コスト縮減に努める。</p>																													
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を 【 継続 】 する。</p> <p>(2)理由 本事業は、河川改修及び水門整備により堀留川流域の浸水被害を軽減するものである。当地域では、近年、激甚化・頻発化する豪雨により、事業の必要性が一層高まっており、さらに事業の投資効果も見込まれ、地元住民の事業への期待も大きく、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。</p>																													

※「再評価理由」は、静岡県交通基盤部、くらし・環境部所管公共事業再評価実施要綱第2に規定する区分に従って記載する。

費用便益比算出説明書

二級河川 堀留川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和6年4月)

総括表

総便益 B	[事業を実施しない場合の被害額]－[事業を実施した場合の被害額] ＋[施設の残存価値]	110,072百万円
総費用 C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	15,657百万円
B / C		7.03

総便益

○事業の有無による被害額の差分  
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間80年(整備期間30年＋50年)とし、現在価値化する。

○施設等の残存価値  
評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned}
 B &= \Sigma \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n \\
 &= 109,771.7 \text{百万円} + 300.5 \text{百万円} \\
 &= 110,072.2 \text{百万円}
 \end{aligned}$$

※ 被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※ 年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※ 整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

○事業建設費  
各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費  
各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。  
建設費の0.5%/年、評価対象期間:80年(整備期間30年＋50年)

総費用

$$\begin{aligned}
 C &= \Sigma \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\
 &= 13,996.4 \text{百万円} + 1,660.2 \text{百万円} \\
 &= 15,656.6 \text{百万円}
 \end{aligned}$$

# 1. 事業箇所位置図



# 2. 事業概要

### 詳細位置図

凡例  
 河川  
 流域界  
 主要道路

新川  
 広域河川改修事業  
 全体延長 L=2,303m  
 堀留川

東海道新幹線  
 東海道本線  
 国道1号

発生日	床上 (戸)	床下 (戸)	浸水面積 (ha)
S50.10.7	251	2348	232.4
H25.9.8	0	2	0.4
H26.10.5	0	8	0.2
H27.9.7	0	3	151.2
R1.7.22	0	8	217.1
R4.9.23	5	10	145.9

S50(既往最大)	
H25.9.8	
H26.10.5	
H27.9.7	
R1.7.22	
R4.9.23	

### 事業目的

概ね10年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることで、同規模洪水に対する床上浸水の発生を防止する。

### 事業内容

計画期間 : 平成27年～令和26年  
 事業内容 : 施工延長 2,303m  
 河道改修(築堤、護岸工等) 2,303m  
 橋梁工 6橋  
 水門工 1箇所  
 全体事業費: 178億円

H27.9.7洪水における浸水状況  
 R1.7.22洪水における浸水状況

### 横断図等

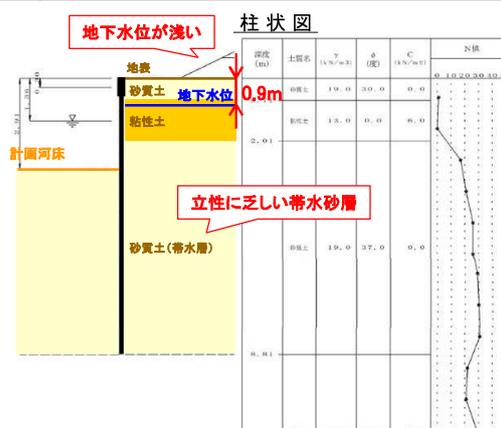
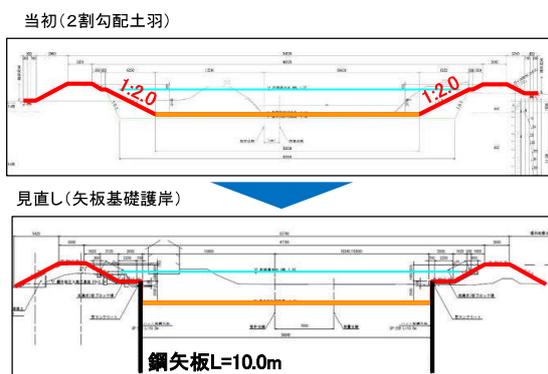
鋼矢板L=10.0m

## 2. 事業概要

### 前回からの変更点・理由

区分	前回(R2)	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	H28～R26	H28～R26 (変更なし)	・ 変更なし
②全体事業費	12,300百万円	17,800百万円 (+5,500百万円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 護岸構造の見直し</li> <li>・ 物価及び労務費の上昇</li> <li>・ 残土処分費の増加</li> <li>・ 補償費の追加</li> </ul>

横断面図



## 3. 事業の投資効果 (費用便益比)

総便益(B) = 1,100.7 (億円)

➤ 被害軽減期待額 1,097.7 (億円)

※洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設等の被害額と営業停止損失、家屋・事業所における応急対策費用

➤ 残存価値 3.0 (億円)

総費用(C) = 156.6 (億円)

➤ 建設費(現在価値) 140.0 (億円)

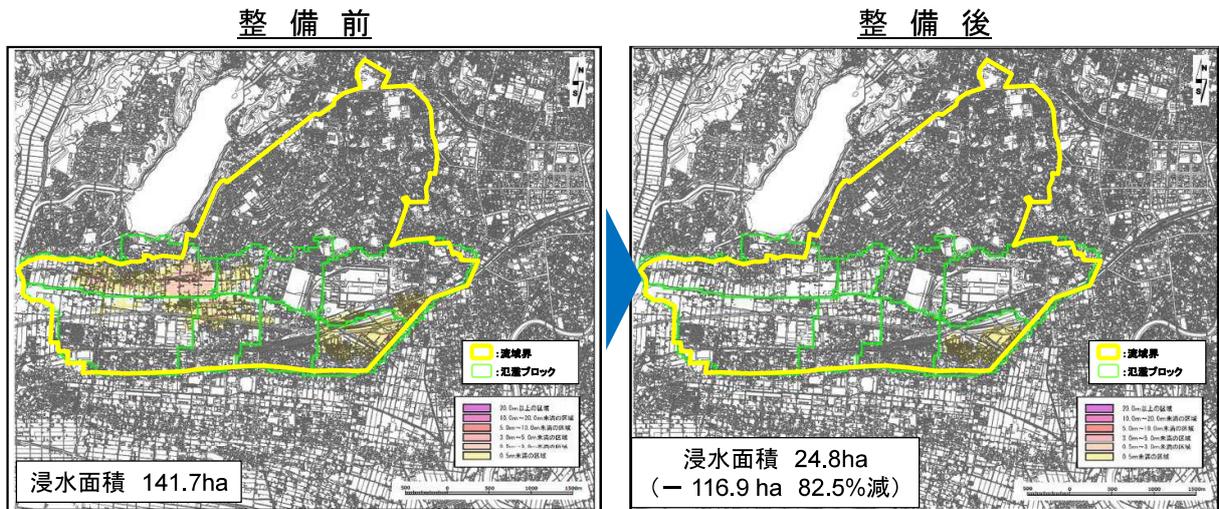
➤ 維持管理費(現在価値) 16.6 (億円)

※令和6年換算価値  
 ※文献(マニュアル):「治水経済マニュアル(案)」  
 (国土交通省水管理・国土保全局、R6.4)

費用便益比(B/C) = 7.0

## 4. 事業の投資効果

【整備目標規模(年超過確率1/10)洪水による氾濫シミュレーション結果】



本事業を実施することにより  
堀留川流域の浸水常襲地域における床上浸水被害が解消される

## 5. 事業の進捗状況 (令和7年度末見込み)



下流より施工済区間を望む



上流より施工済区間を望む



新設水門



## 6 . 今後の事業の進捗の見込み

- 新川合流部に設置する新設水門について令和元年度より着手し、令和5年度に完成した。
- 「堀留川を考える住民会議」を設けるなど、地元も協力的であり、用地買収に向けた調整等も順調に進んでいる。
- 毎年のように甚大な浸水被害が発生しており、地元の期待度は非常に高く、事業に対し協力的であることから、引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。

## 7 . 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 工事発生土を、近隣の公共事業に利用するなど、引き続き、他事業と連携し、コスト縮減に努める。
- 道路管理者および地元自治会等と調整の上、橋梁の統廃合も検討し、コスト縮減に努める。

## 8 . 対応方針（案）

- 本事業は、堀留川の河道改修と水門新設により、浜松市西部地域の浸水常襲地区の家屋浸水被害を軽減するものである。
- 近年の気候変動に伴う激甚化、頻発化する豪雨災害により、地域住民から早急な治水対策が求められており、事業の投資効果も見込まれている。
- 出前講座や新設水門見学会を開催するなど地元理解を深める活動を行っている。
- 費用対効果も見込まれ、地元の期待も大きく、今後の事業進捗が見込められる。

早期の浸水被害解消のため  
**事業を継続**する